

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3270101524		
法人名	有限会社サン・リンク		
事業所名	グループホーム 陽恵苑		
所在地 (電話番号)	島根県松江市馬潟町104番地1 (電話) 0852-38-8128		
評価機関名	NPO しまね介護ネット		
所在地	松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	2008年2月29日	評価確定日	2008年 3月 14日

## 【情報提供票より】平成 20年 2月 25日

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 25 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	17 人	常勤 13 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	14, 8

### (2) 建物概要

建物形態	併設型	新築
建物構造	木造	
	2階建て	1~2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	27,000 円
敷金	有( ) 円 ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 100,000円	有りの場合 償却の有無	有(期間:5年)
食材料費	朝食	365 円	昼食 480 円
	夕食	510 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,355 円		

### (4) 利用者の概要(2月25日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	8 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	69 歳	最高	99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	松江生協病院 入澤クリニック 青木歯科医院
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住む人に優しい住まいで「地域の人達と一緒に元気で安心した安らぎのある生活が送れるように支援したい」という管理者と職員の下、利用者は散歩やトランプ、庭でのお茶を楽しんだり、階段で歩行訓練をしたり、それぞれのペースで穏やかな生活を楽しんでいる。管理者はホームが地域の一員として支え、支えられる関係の向上のために意欲を持って取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題の「介護計画の見直し」「継続的な研修の受講」は検討され改善されていた。「地域の人達との交流の促進」「食事を楽しむことの支援」は話し合いを重ねながらさらに改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が日々のサービスを振りかえりながら、職員の意見を聞き、新たな課題や問題点を確認しまとめた。問題を共有し改善の取り組みを始めるのはこれからである。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	3ヶ月に1回開催され、事業計画、外部評価結果、ホームの行事や暮らしぶり、看取りについて、地域とのかかわり方などの報告や話し合いがもたれている。町内会長、民生委員の参加のもと、徐々に地域や町との連携も進み始めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	2~3ヶ月に1回の陽恵苑たよりを発行送付し、利用者の様子を知らせている。家族の面会時や遠方の方には電話連絡をしたとき、家族参加の催し物の後には必ず意見や要望を聞くようにして、出された要望や意見は会議で話し合い改善に取り組んでいる。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの夏祭りやバザーに参加を呼びかけたり、公民館の主催する喫茶に出かけて行ったり、中学生やボランティアの人達との交流も行っている。自治会との関わりは薄かったが、運営推進会議をきっかけに少しずつ交流が始まっている。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者、家族、職員、地域の人達と共に幸せな生活を支えあい、その人らしく生活することを支援していくという理念を事業所独自に作り上げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は廊下やパンフレットに明示している。職員はいつもコンパクト化した理念カードを身につけ、ミーティング時に唱和し共有し、日常のケアの中で取り組んでいる		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公民館活動のよらい喫茶に行ったり、中学生の生徒研修やボランティアを受け入れている。運営推進会議などで、地域との交流の活発化に取り組んでいる。	○	引き続き地域との交流の推進に取り組んでいただきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価結果を皆で話し合い、運営推進会議に報告し、それをもとに改善に取り組んだ。自己評価は管理者が検討してまとめ、新たな改善点や問題点を確認した。	○	外部評価、自己評価を年間計画の中に位置づけ、時間をとって職員全員で改善に取り組まれることを期待する。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回運営推進会議が開催され、ホームの様子、運営状況などについて話し合い、意見や問題点は業務検討会議で取り上げサービスの向上に活かしている。	○	2ヶ月に一回の開催に期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	問題や相談、わからない事など市町村担当者と連絡をとりあいながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	2～3ヶ月に1回、たよりを発行し送付している。面会時や遠方の方には電話で日常の生活の様子や健康状態を話している。金銭管理は毎月報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には必ず要望や苦情、意見があれば出してもらうよう話している。出された意見や要望については、ユニット会議で話し合い、検討し改善に取り組んでいる。	○	個々の家族への対応と同時に、家族会など家族同士の意見の交流を行い、家族の声が運営に反映されるような取り組みに期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は極力しないようにしている。離職がある場合、利用者、家族に対しても、混乱がおきないように引継ぎをきめ細やかに行うなど、ダメージを防ぐ努力をしている。		
。					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	すべての職員が段階に応じた研修に参加できるよう配慮されている。研修内容は報告され共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などで管理者、職員が交流しているが、十分ではない。	○	他のグループホームなど同業者との交流の機会を作り、相互訪問や勉強会などを通して、サービスの質の向上に期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に本人、家族に見学してもらい安心していただけるようにしている。なかなか馴染めない方には、家族に頻回に面会に来て貰ったり、電話で声を聞かせてもらうなど、相談しながら一人ひとりに合わせた対応をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	子供の時に言われたことや、昔の知恵、味付けなど生活の中でたくさん教えてもらう機会がある。また感謝してもらったり、励ましてもらったりして、心がやすまり共に支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、常に声をかけ本人の希望や思いを聞くように努めている。困難なときには時間をかけて寄り添って、思いを汲み取るようにしている。家族からの情報も得て本人の思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の生活歴をもとに、利用者、家族、担当職員と話し合い、ユニット会議で他の職員の意見も取り入れながら、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月に1度のユニット会議で話し合い現状に即した介護計画の見直しをしている。また状態に変化がある時はその都度見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて受診、通院支援をしている。	○	さらに多機能性を活かした柔軟な支援に取り組んでいただきたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人、家族の希望に沿った馴染みのかかりつけ医の受診や往診の支援が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	インスリンを打っている方、透析の方、胃ろうの方がいる。管理者、職員は情報を共有しながら、かかりつけ医と相談の下、できるだけホームで過ごしてもらおうという方針でケアを行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誘導の声かけなど目立たずさりげなく行われている。記録などもきちんと管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のおおよその過ごし方はあるが、食事など利用者のペースや希望などを考慮し、柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方は食事の準備や後片付けを職員と一緒にしている。利用者と職員と一緒に食事をする体制になっていない。	○	利用者と職員とが楽しい雰囲気の中で同じテーブルを囲んで、同じものを一緒に食べる環境づくりに取り組んでいただきたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回の入浴が決まっている。夜間入浴は希望する利用者がいないため支援はされていない。	○	利用者一人ひとりの希望に沿って、ゆったりと入浴を楽しむことができる支援が望まれる。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の支度や盛り付け、洗濯物たたみ、野菜の収穫、ゴミ箱作り、カラオケなど利用者一人ひとりに応じた役割や楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	庭での散歩やお茶会、近くの神社、買い物、ドライブなどできるだけ一人ひとりの希望や状態に応じて、戸外に出かけられるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は鍵を掛けない支援をしている。利用者が外出しそうな様子を察知したら、さりげなく声をかけたりし、安全面に配慮しながら自由な暮らしができるように支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て定期的に避難訓練をしている。また近所の方へ協力をお願いしている。	○	災害に備えた3日程度の備品等の準備と、地域と合同の非難訓練の実施にむけ引き続き取り組んで頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量や水分量はチェック表で把握している。透析や糖尿病などの利用者に対し、かかりつけ医の指導を仰ぎながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間からは、和風庭園や季節の花や木、野菜がある庭が眺められ、四季の移り変わりを感じることができる。畳やソファのコーナーなど利用者の活動に応じゆっくりとくつろげるように工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた箆笥や仏壇があったり、お茶のみスペースがあったり、家族の写真や馴染みなものが置いてあり、その人らしい居心地のいい居室作りが工夫されている。		